

## ○ 事例発表 1

### 「消えない村 京丹後市の離村集落とその後」

発表者 小山 元孝氏 NPO 法人 TEAM 旦波・兵庫県立大学大学院 博士後期課程

- ・「TEAM 旦波」とは、東京丹後人会若手の有志のより 2014 年に発足した NPO 法人。会員は、会社員・自営業・公務員等。「集落の将来について考えるワークショップ」開催などを行っている。
- ・京丹後市の概要：
  - 2004 年 4 月に、峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町が合併し誕生。
  - 人口：21,439 世帯、65,822 人（2004 年 3 月末）  
22,865 世帯、54,559 人（2019 年 8 月末）
  - 面積：501.84 km<sup>2</sup>
  - 東西：約 35 km
  - 南北：約 30 km
- ・学校や幼稚園がなくなった。高校は合併が予定されている。
- ・昭和 40～50 年代に集落が消滅。
- ・無居住化した集落へ足を運び、下記の項目で住民への調査を実施。
  - 1) 無居住化への経緯
  - 2) 記念碑や民俗誌の整備状況
  - 3) 無居住化したあとの伝統的行事の変化
  - 4) 元住民の帰属意識や地元意識の変化
  - 5) 神社・墓地等の整理
  - 6) 再居住の意向
  - 7) 地域の歴史文化の核となる要素とその維持の方法（祭りやシンボリックな木等）
  - 8) 歴史文化の連続性を維持した無居住化の可能性
  - 9) 元住民で構成する親睦会の存在、設立経緯
- ・調査集落は、山内（旧久美浜町）・尾坂（旧網野町）・三山、小脇（旧丹後町）・住山（旧弥栄町）・内山（旧大宮町）
- ・「38 豪雪」が集落消滅の大きな原因ではあったが、抱えていた問題は集落や人それぞれだった。それらの問題が積み重なったところに豪雪が発生した。

#### ● 事例 1：京丹後市久美浜山内

- ・集落にあった石造物が集落跡に集められている。
- ・80 年代に建てられたリゾート施設が廃墟に。
- ・村を離れた際の土地の扱いが特徴的。離村時には住民の土地を京都府が買い上げる。かなり安い価格だったが、住民が納得した理由が、また集落の戻りたいと希望した際に、売却した値段の同額で買い戻すことができるから。「帰村権」が設定された。実際に「帰村権」が使われたことはないが、「持ち続けたい」という元住民の声がある。ただ、知事が府議会での答弁で言っているが、書面でかわされていないため、相続に関しては不明。

#### ● 事例 2：京丹後市網野町尾坂

- ・消滅した後も、元住民によって草刈り等の道普請が行われている。

・今も「記録簿」が記されている。今でも年に何度か集まり、コミュニケーションが続いている。

● **事例3：京丹後市丹後町小脇**

・集落にあったお地蔵さんを寺に移したが、元あった場所にも何か残したいと「小脇乃里由来碑」が建てられた。

・「小脇乃里由来碑」の周辺の整備のために、麓から定期的に元住民が訪れている。

● **元住民の声は、以下のとおり。**

・小学校が遠く、通学に苦労した。子どもには楽をさせたいという気持ちから、麓に出る人が増えた。

・長男は集落に残って跡を継ぎ、次男・三男は家を出ざるを得なかった。こうした経緯もあって、家を出た方はもとの土地を聖地のように思っている。

・当時はセータ（背板）が背中から離れなかった。（再度、集落に戻りたいか？と問いに、「戻りたくない」との答え）

・1戸出ると、「よそもそうか」という話になり、次々に離れるようになった。高齢者は住み慣れたところがいいという感じであったが、若い人は仕事のこともありそうもいかなかった。

（Q：離れてしまった土地に対して心残りはありますか？）

・はっきり言ってある。もう少し地域のことを子どもに教えておけばよかった。

・空気がきれいで環境がよく、理想的なところだった。正直言ってもったいないという気持ちがある。

・シンボリック的存在であった観音像や村の鎮守を移した。このように心残りがないようにしてきた。時間をかけて村を閉じた。

・土地が残っており、国や市で買ってもらえるとありがたい。もう境界線が分からなくなっている。

・私は土地を一括して公有化することは反対。自分の子どもより孫のほうが地域に関心を持ってくれていて心強い。

● **なくなってないが、消滅を危惧する集落「野間」（旧弥栄町）での調査。**

・住民が、自分たちの村の魅力を語れる。

（移住者の声）

・田舎はすぐに話が広まってしまうが、それは悪いことではない。むしろ、いいこと。村の誰もが自分たちのことをわかってくれている。

・野間には田舎の力、人の手で生産する力がある。

・マイナスイメージは自分たちが作ってしまっている。野間は不便と決めつけることよりも、「くらし方の問題」なのでは？

（野間の地元民の声）

・他人とつきあうと気を遣うが、刺激になる。

・人を受け入れると、地元のよさもわかる。

・外から来てもらった人を裏切らない規律が必要。

・こんな時代だからこそ、受け入れる。

（野間在住の子どもたちの声）

- ・野間でもスマホが使えるようになった。
- ・都会でできることで、野間でできないことはない。
- ・だったら、野間だけでしかできないことがあったほうが、そっちの方がいいのではないか。
- ・子どもたちが地域のことをよく知っている。

